

一縣に一港の設備

内務省横濱土木出張所長

工學博士 安 藝 杏 一

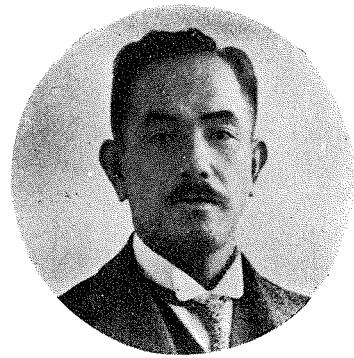
一國の産業と國民生活の資源に重大な關係ある大量貨物の輸送といふことを水運と陸運とに分ち、之を我國現在の狀態に對照して見るに、陸運の發達大いに見るべきものあるに反し、水運は非常に劣つてゐる。元來この兩者は車の兩輪の如く相俟に進むべきものであるにも拘らず、何故水運のみ斯く遅れてゐるのであらうか。

今、經濟上から兩者を比較するに、汽車の輸送力 1列車 300噸位に對し、汽船では尠くも10列車分位を一度に積込むことが出来るから、單に積載量から見れば船便の方が非常に利益である。

近頃痛切に感ずることだが、鐵道だけでは貨物が到底捌き切れない時代が来るに明瞭なるものがあるから、將來完全なる港が一縣に一港は是非必要と思ふ。勿論、刻下財政難の國情に應じて、よりあへず簡単な施設——防波堤、棧橋、上屋等を設備すれば、鐵道と相俟つて廣く一般に水運が利用されるやうになり、その發達は蓋し目覺しいものがあるであらう。

往時盛んに利用された淀川、利根川其他のインランド、ラインが今日すつかり衰微したのは、陸上との聯絡設備が舊態の儘で更に改善されなかつたため、遂に鐵道に壓倒されて了つたのである。併し將來を考ふれば、各河川に相當の改良を加へて所々に河港を造り、水陸聯絡の小設備を施す必要があると思ふ。

海には各府縣に相當施設を有する港灣一を設け、又内地には各河川に夫々小港を有するに至れば、運輸の便は鐵道と相俟つて大いに發達し、工業原料は安價となり、產業の發達



安藝博士最近の小照

Dr. K. Aki.

同時に、國民生活の充實は期して待つべきである。

京濱間の運河計劃地帶の如きは實に好個の工業地帶であつて、水運による利便は近き將來に於て我國產業上の原動地となることゝ信する。

工業港の發達は今後の我國に最も重要であるが、各地方に小工業港を設けるためには、工業原料と動力と工場位置とを考慮するに同時に、他方職工の能率を増進せしむる施設が必要である、云々。

安藝博士の壯重な墨書が横濱の名士書畫會で二百金に購はれた事は、技術家として珍らしい評判になつたが、博士の書は本誌も墨色靜心の好題材として残してゐる。

墨色清風を生ずるの時期であるから、博士の書風を本誌に紹介する方が適切であるかも知れないが、海港に對する國策として博士の所論は本號に逸し難いものであるから、其談の儘を紹介する事にします。(記者)